

看護学科 カリキュラムマップ(2024年度入学生)

次のような知識や能力を備えた学生に学士(看護学)の学位を授与します。

① 豊かな人間性と高い倫理観をもち、対象の人々の健康な生活の実現のために科学的根拠に基づく専門的な志向を身につけている(思考)
 ② 質の高い看護実践を目指し、看護学および関連学問領域の最新の知識・技術を主体的に探索し活用することができる(知識・態度)
 ③ 優れたコミュニケーション能力を身につけ、対象者と対話による相互理解や良好な人間関係を築くことができる(態度・行動)
 ④ 看護専門職として保健医療福祉等の多様な職種と協働して活動できる能力を身につけている(知識・技術)
 ⑤ 常に研究的視点を持ち、看護実践の解決すべき課題の発見と解決のため論理的な思考と分析ができる(思考・知識・態度)
 ⑥ グローバルな視点で多様な価値観を持つ人々の健康に貢献できる資質を身につけている(創造・行動)

科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
看護学概論	講義	1	2	看護を構成する主要概念を学び、看護の本質や役割を理解するとともに、看護学がどのような学問であるか自分なりに考えることができ、これから学習する看護学全般について関心をもち学習意欲を高める。	1. 看護と健康・環境・人間の概念を把握し、看護の目的・看護師の役割について説明することができる。 2. 看護学の歴史の変遷を概観し、現代看護の位置づけや今後の看護の発展について考えることができる。 3. V.ヘンダーソンの看護理論を中心に、主な理論家の看護理論の概念、看護理論を構成する重要概念について説明することができる。 4. 看護実践を構成する要素と実践する過程を説明することができる。 5. 人間を対象とする看護実践に欠くことのできない看護倫理の基礎を説明することができる。 6. 看護専門職の概念や制度を把握し、生涯学び続けることの重要性を説明することができる。 7. これから看護に求められる役割を説明することができる。	◎	○				
看護早期実習	実習	1	1	入学後早期に病院や地域に向き、多様な看護の対象や療養の場を知り、それぞれの場における看護の機能・役割を理解する。新鮮な感性で現場の状況や人々とふれあうことを通して、今後の専門教育への取り組みの動機づけとする。	1. 病院および地域の暮らしのなかにおける療養の場の特徴を説明できる。 2. 病院および地域の暮らしのなかで療養する対象の特徴を説明できる。 3. 病院および地域の暮らしのなかにおける看護の機能・役割を説明できる。 4. 看護専門職を目指す者として、自覚のある行動をとることができる。 5. 看護学を修得するための自己の課題を見だし、今後の学習の動機づけとすることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
看護過程論	演習	1	1	看護援助を展開するための思考プロセスに必要な基礎学習を行い、看護過程を展開する基礎的能力を養う。	1. 看護過程の意義や構成要素について説明できる。 2. 収集した患者情報をヘンダーソンの14項目の枠組みにそって整理できる。 3. 整理した情報を分析・解釈できる。 4. 全体像を明確にできる。	○	◎	◎			
看護方法論 I	演習	1	2	看護の対象となる人々の健康の促進や安全・安楽に必要な看護技術の基礎的能力を養う。	1. 看護実践における看護技術の意義や重要性を説明できる。 2. 標準予防策と、感染を予防するための技術を実施できる。 3. 療養環境を整えるための基本技術を実施できる。 4. ボディメカニクスの基本原理を踏まえ、効果的・効率的に動くことができる。 5. 対象の安全と安楽を守るための移動や移送の基本的な技術を実施できる。 6. 対象の健康を評価するためのバイタルサイン測定を実施できる。	○	◎	◎			
看護援助論	講義	2	2	看護の対象の安全・安楽・自立/自律を考慮した日常生活援助、及び、診療補助に必要な知識・技術を修得する。	1. 日常生活を支えるために必要な各看護技術(身体の清潔を援助する技術・食生活を支える技術・排泄を促す技術)について、根拠に基づいた目的・方法・留意点を説明できる。 2. 診療の補助に必要な各看護技術(感染を予防する技術・呼吸を楽にする技術・皮膚・創傷を管理する技術・検査に伴う技術・与薬のための援助技術)について、根拠に基づいた目的・方法・留意点を説明できる。 3. 口腔ケア、包帯法、一時的導尿について、根拠に基づいた目的・方法・留意点を踏まえて実施できる。	○	◎	◎			
看護方法論 II	演習	2	2	既習科目で学んだ知識を踏まえながら、看護の対象の安全・安楽・自立/自律を考慮した日常生活援助、及び、診療の補助を実施するために必要な技術・態度を養うとともに、対象に合った方法で看護を提供するための臨床判断能力を養う。	1. 日常生活を支えるために必要な各看護技術(身体の清潔を援助する技術・食生活を支える技術・排泄を促す技術)を、根拠に基づいた目的・方法・留意点を踏まえて実施できる。 2. 診療の補助に必要な各看護技術(感染を予防する技術・呼吸を楽にする技術・皮膚・創傷を管理する技術・検査に伴う技術・与薬のための援助技術)を、根拠に基づいた目的・方法・留意点を踏まえて実施できる。 3. 援助技術の実施や患者体験を通して、看護師として望ましい援助実施時の態度について検討できる。 4. 対象に合った援助を実施するための臨床判断に至る思考プロセスとして、対象の状態・状況・ニーズのアセスメント、及び、援助の目的・方法・留意点を説明できる。	○	◎	◎			
ヘルスアセスメント	演習	2	2	看護に必要な情報を収集するための基本的な知識と技術を学び、ヘルスアセスメントに関する実践的な力を養うとともに、看護過程を展開する基礎的能力を養う。	1. 看護におけるヘルスアセスメントの意義・内容を説明できる。 2. フィジカルイグザミネーションの技法を用いて呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系の情報を収集しアセスメントできる。 3. 事例患者のヘルスアセスメントができる。 4. 事例患者の看護過程の展開ができる。	○	◎	◎			

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(看護学)の学位を授与します。 ① 豊かな人間性が高い倫理観をもち、対象の人々の健康な生活の実現のために科学的根拠に基づく専門的な志向を身につけている(思考) ② 質の高い看護実践を目指し、看護学および関連学問領域の最新の知識・技術を主体的に探索し活用することができる(知識・態度) ③ 優れたコミュニケーション能力を身につけ、対象者と対話による相互理解や良好な人間関係を築くことができる(態度・行動) ④ 看護専門職として保健医療福祉等の多様な職種と協働して活動できる能力を身につけている(知識・技術) ⑤ 常に研究的視点を持ち、看護実践の解決すべき課題の発見と解決のため論理的な思考と分析ができる(思考・知識・態度) ⑥ グローバルな視点で多様な価値観を持つ人々の健康に貢献できる資質を身につけている(創造・行動)										
看護基礎実習	実習	2	2	看護の対象を、ヘンダーソンの理論的枠組みを用いて統合的に理解し、必要な看護実践を通して、看護過程を展開する基礎的能力を習得する。	1. 受け持ち患者を通して、ヘンダーソンの理論的枠組みに基づいたアセスメントができる 2. 全体像に基づき、優先すべき看護上の問題を特定できる 3. 特定した看護上の問題を解決するための看護計画を立案できる 4. 受け持ち患者の回復過程を促進するための看護援助を実践できる 5. 実施した看護の評価ができる 6. 受け持ち患者やその家族と良好な人間関係を構築できる 7. 看護チームの一員としての自覚を持った行動ができる 8. 実習期間を通して主体的かつ積極的に課題に取り組むことができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
地域の暮らしと看護	演習	1	1	人々の暮らしを理解し、地域の生活環境とその暮らしが健康に与える影響を学び、その人らしい暮らしの継続のための多様な看護の考察を深め、実践する基礎的な能力を養う。	1. 「生活」「暮らし」をどのように捉えるのか、体験し、説明できる 2. 「地域」「生活環境」をどのように捉えるのか、体験し、説明できる 3. 地域の生活環境とその暮らしが健康に与える影響について、体験し、説明できる 4. 地域の人々のその人らしい暮らしを継続するための多様な看護について、説明できる。	○	○		◎			
地域・在宅看護学	講義	2	2	地域に暮らす人々の健康の保持増進、疾病予防、QOLの向上を担う看護を理解するために、地域・在宅看護における理念、対象、活動の場、関連する制度について体系的に学び、人々の暮らしを支える看護職の役割を探究する。	1. 社会環境の変化とそこから生じる健康課題を説明できる。 2. 地域看護・公衆衛生看護活動の展開の基盤となる概念を説明できる 3. 地域看護・公衆衛生看護の理念について述べるができる。 4. 地域看護・公衆衛生看護の対象について述べるができる。 5. 地域看護・公衆衛生看護の活動の場と看護について述べるができる。 6. 在宅看護の基本理念と対象について説明できる。 7. 在宅看護を支える制度について説明できる。 8. 訪問看護制度について説明できる。 9. 在宅におけるケアマネジメントの役割と実際が説明できる。 10. 在宅看護における家族のアセスメントの視点を説明できる。 11. 在宅看護における家族の支援を説明できる。 12. 在宅看護におけるリスクマネジメントの特徴を学び、病院との違いを説明できる。 13. 在宅看護過程の特徴と展開方法を理解し、展開内容を表記することができる。	◎		○	○			
地域看護方法論	演習	2	1	地域の特性や社会資源、健康指標をもとにした地域のアセスメントを行い、地域の健康課題の抽出過程と健康課題に基づく地域看護活動の実際を学ぶ。地域で生活する人々への保健活動がライフステージ別、健康レベル別にどのようなヘルスケアシステムの中で実施されているか理解し、地域看護活動を体系的に捉える能力を身につける。さらには、地域包括ケアシステムが必要な社会的背景とその役割を理解し、多職種と連携しながらシステムにおける看護の役割を創出できる基礎的能力を養う。	1. 地域診断の概要を理解し、地域の特性、社会資源、健康指標の動向から、地域の健康課題を把握する方法について説明できる。 2. 地域看護診断に基づき、地域の健康課題を抽出できる。(天理市) 3. 地域の健康課題について、その特性に応じた支援方法について説明できる。 4. 地域看護活動の概要を説明できる。 1) 地域行政機関(都道府県・市町村)における地域看護活動 2) 病院における地域看護活動 3) 職場における地域看護活動 4) 学校における地域看護活動 5) 地域包括支援センターにおける看護活動 5. 地域の看護活動について、地域の健康課題に関連付けて具体的に説明できる。 6. 地域の看護活動について、関連する施策や社会資源について説明できる。 7. 地域包括ケアシステムが必要な社会的背景と多職種の連携について説明できる。 8. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割について説明できる。					◎	○	
在宅看護方法論	演習	2	1	地域に暮らす対象の状態に応じた看護および暮らしの場で行われる医療的ケアについて理解し実践できる基礎的能力を養うとともに、在宅看護実践において必要なコミュニケーション能力を養う。	1. 地域の暮らしの場で行われる看護と医療的ケアについて、安全かつ安楽な方法を説明できる。 2. 在宅看護における対象の状態に応じた在宅看護の具体的な実践について理解し、説明できる。 3. 地域の暮らしにある継続看護について、具体的に述べることができる。 4. 訪問看護の初回訪問についてロールプレイで実践し、在宅看護に必要なコミュニケーションを習得できる。	○	◎	◎	○			
在宅看護学実習	実習	4	2	1. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族の理解を深め、望む暮らしを捉えることができる。 2. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族の看護課題(療養上の課題・生活上の課題)を明確にできる。 3. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族の望む暮らしをふまえた看護目標を立案できる。 4. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族を支える社会資源の活用方法を説明することができる。 5. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族が望む暮らしを実現するための保健医療福祉チームにおける看護師の役割を説明することができる。 6. 訪問看護活動に必要な法的根拠と制度について説明することができる。 7. 学習者らしく積極的に実習に臨み、主体的に学習できる。	1. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族の理解を深め、望む暮らしを捉えることができる。 2. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族の看護課題(療養上の課題・生活上の課題)を明確にできる。 3. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族の望む暮らしをふまえた看護目標を立案できる。 4. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族を支える社会資源の活用方法を説明することができる。 5. 疾病や障がいを持ちながら地域で暮らす人々とその家族が望む暮らしを実現するための保健医療福祉チームにおける看護師の役割を説明することができる。 6. 訪問看護活動に必要な法的根拠と制度について説明することができる。 7. 学習者らしく積極的に実習に臨み、主体的に学習できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

次のような知識や能力を備えた学生に学士(看護学)の学位を授与します。

① 豊かな人間性と高い倫理観をもち、対象の人々の健康な生活の実現のために科学的根拠に基づく専門的な志向を身につけている(思考)
 ② 質の高い看護実践を目指し、看護学および関連学問領域の最新の知識・技術を主体的に探索し活用することができる(知識・態度)
 ③ 優れたコミュニケーション能力を身につけ、対象者と対話による相互理解や良好な人間関係を築くことができる(態度・行動)
 ④ 看護専門職として保健医療福祉等の多様な職種と協働して活動できる能力を身につけている(知識・技術)
 ⑤ 常に研究的視点を持ち、看護実践の解決すべき課題の発見と解決のため論理的な思考と分析ができる(思考・知識・態度)
 ⑥ グローバルな視点で多様な価値観を持つ人々の健康に貢献できる資質を身につけている(創造・行動)

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
地域共生マネジメント方法論	演習	4	1	地域共生社会および地域におけるその人らしい暮らしの継続のための多様な看護について理解し、地域の健康課題に対して、住民が主体となって課題解決を担うためのマネジメントの具体的方法を学び、地域共生社会における看護の役割を担う基礎的な能力を養う。	1. 地域共生社会の背景と役割を説明できる。 2. 地域のアセスメントにおける情報収集を実施できる。(地区踏査の計画・実施、地域の社会資源での情報収集、住民へのインタビュー等) 3. 地域のアセスメントを行い、地域の課題を抽出できる。 4. 地域の健康課題に対して必要な住民の主体的な自助活動、互助活動について述べるができる。 5. 地域の健康課題に対する住民の主体的な活動の計画・評価を立案できる。 6. 地域の健康課題に対する住民の主体的な活動の計画発表・修正ができる。 7. 地域共生社会の構築のための看護とマネジメントの役割を述べるができる。			◎	◎	○	○
地域共生マネジメント実習	実習	4	1	地域の健康課題に対し、地域共生社会の視点から必要とされる看護の役割を考察し、住民が主体となって課題解決を担うための住民および多職種間のマネジメントを実践する基礎的な能力を養う。	1. 実習拠点となる地域において実践されている地域看護活動を地域共生社会の理念に基づき考察し、実践しているマネジメントや看護を述べるができる。 2. 地域の健康課題に関する地域住民の主体的な活動の支援計画を説明できる。 3. 地域住民へ活動支援計画の実施、評価ができる。 4. 住民が主体となって地域の健康課題を解決するために必要な住民および多職種間のマネジメントと看護について考察し、述べることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
成人看護学	講義	2	2	成人期の対象を理解し、成長・発達および健康状態に応じた成人看護の基礎を理解する。	1. 成人期にある対象の成長・発達および社会環境の特徴を説明できる。 2. 成人期に特徴的な健康問題と保健・医療・福祉対策を説明できる。 3. 成人期にある対象の健康状態に応じた看護援助を説明できる。 4. 健康障害をもつ成人にかかわる際に活用可能な看護の主要概念を説明できる。 5. NANDA-I 13領域の分類とアセスメントの視点、および看護診断を説明できる。 6. 成人期にある対象への退院支援と地域・在宅への継続看護を説明できる。	◎	○		○		
成人看護援助論	講義	3	2	疾病をもつ成人期にある人とその家族に対する看護を実践するための基礎知識と基本技術を理解する。	1. 疾病が成人期の人や家族の身体・心理・社会的側面に与える影響を説明できる。 2. 疾病をもつ人が安全・安楽に検査や治療を受けるための援助を説明できる。 3. 治療を受ける人の生命を維持し回復を促進するための援助方法を説明できる。 4. 疾病をもつ人が入院中および退院後の療養生活の中で健康管理を継続できるようにするための援助を説明できる。 5. 疾病をもつ人の家族の身体的、心理社会的苦痛を説明できる。	◎	◎	◎	◎		
慢性期看護方法論	演習	3	1	慢性疾患をもつ成人期にある人とその家族に対する看護を実践するための基礎知識と基本技術を習得する。	1. 慢性疾患をもつ事例患者の治療経過や自己管理の状況をアセスメントし、療養上の課題を記述できる。 2. 慢性疾患をもつ事例患者が安全・安楽に検査や治療を受けるための援助を記述できる。 3. 慢性疾患をもつ事例患者が入院中および退院後の療養生活および健康管理を継続するための援助を、理論や主要概念を用いて実施できる。 4. 慢性疾患をもつ事例患者とその家族の在宅移行を支援するための多職種連携と看護師の役割を記述できる。 4. 慢性疾患をもつ事例患者の疾病管理および健康管理に必要な基本技術を実施し、実際場面に適用する時の課題を記述できる。	◎	◎	◎	◎		
慢性期(在宅移行)看護学実習	実習	3	3	慢性的な経過をたどり長期療養を要する患者および家族の健康問題を捉え、療養生活の向上を目指す看護および円滑な在宅移行に向けた看護を実践するための基礎的な能力を習得する。	1. 看護援助の見学を通して、地域で暮らす対象を生活者という視点で理解し、在宅移行を支える医療チームの一員としての看護活動を説明できる。 2. 慢性期にある対象を理解し、重要な看護問題を特定できる。 3. 対象に必要なセルフマネジメントの実現に効果的な看護計画を立案できる。 4. 療養の場を病院から地域に変更することを踏まえた看護を実践できる。 5. 実施した看護を評価した上で継続を要する看護援助を説明できる。 6. 医療チームの一員としての自覚をもって行動できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
急性期看護方法論	演習	3	1	周手術期および急性期にある成人期の人とその家族に対する看護を実践するための基礎知識と基本技術を習得する。	1. 周手術期にある事例患者の術前術後のリスクアセスメントを記述できる。 2. 事例患者の看護問題と必要な看護を臨床判断を用いて考えることができる。 3. 事例患者の看護問題を解決するための看護計画を記述できる。 4. 事例患者に対し術後に必要な基本技術を実施し、実際場面に適用する時の課題を記述できる。	◎	◎	◎	◎		

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
						次のような知識や能力を備えた学生に学士(看護学)の学位を授与します。 ① 豊かな人間性が高い倫理観をもち、対象の人々の健康な生活の実現のために科学的根拠に基づく専門的な志向を身につけている(思考) ② 質の高い看護実践を目指し、看護学および関連学問領域の最新の知識・技術を主体的に探索し活用することができる(知識・態度) ③ 優れたコミュニケーション能力を身につけ、対象者との対話による相互理解や良好な人間関係を築くことができる(態度・行動) ④ 看護専門職として保健医療福祉等の多様な職種と協働して活動できる能力を身につけている(知識・技術) ⑤ 常に研究的視点を持ち、看護実践の解決すべき課題の発見と解決のため論理的な思考と分析ができる(思考・知識・態度) ⑥ グローバルな視点で多様な価値観を持つ人々の健康に貢献できる資質を身につけている(創造・行動)					
急性期看護学実習	実習	3	2	周手術期および急性期にある対象の健康問題に対する反応を理解し、回復を促進するための看護援助を実践する基礎的能力を習得する。	1. 周手術期および急性疾患・慢性疾患急性増悪にある対象の健康問題に対する反応を統合的に捉えて説明することができる。 2. 対象にとって重要な看護問題を診断し、その問題を解決するための看護計画を立案することができる。 3. 対象の心身の安寧を維持できる方法で援助を実施することができる。 4. 実施した援助を評価し計画を修正しながら看護を実施することができる。 5. 医療者としての倫理的姿勢をもって行動することができる。 6. 看護チームの一員としての自覚を持って行動することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
高齢者看護学	講義	2	2	老年期を生きる人々の身体的・心理的・社会的特徴を学び、我が国の高齢者社会の特徴と課題・保健医療福祉の概要および高齢者のQOLを高める看護について習得できる。また、加齢による機能の低下や高齢者に特有な疾病・障害・認知症を持ちながら生活する高齢者とその家族について理解し、治療過程にある高齢者とその家族への看護が習得できる。	1. 老年期を生きる人々を多角的にとらえ、発達課題を説明できる。 2. 高齢者の身体の加齢変化とアセスメントの視点が説明できる。 3. 高齢者を取り巻く社会的状況・保健医療福祉の動向について説明できる。 4. 高齢者の尊厳を守る看護・倫理的課題について考えることができる。 5. 老年看護の理念と高齢者のQOLを高める看護の役割と機能について考えることができる。 6. 高齢者に特有な疾患の症状・診断・検査・治療について説明できる。 7. 高齢者に特有な疾患の看護について説明できる。 8. 認知症のある高齢者の特徴について説明できる。 9. 高齢者のリスクマネジメントと治療を必要とする高齢者の看護について説明できる。	◎	○				○
高齢者看護方法論	演習	3	2	老年期を生きる人々の多様性を理解し、高齢者の生活機能を支える看護と健康逸脱からの回復を促す看護を展開するために必要な基礎的知識と技術を習得する。高齢者の尊厳を保つた看護について認識し、適切な老年看護技術と看護過程の考え方および事例展開の実践について習得できる。	1. 高齢者の身体的・精神的・心理・社会的変化が日常生活にどのように影響をおよぼし、その影響から必要な看護を説明できる。 2. 高齢者によくみられる症候のアセスメントと看護が説明できる。 3. 高齢者の意思を尊重する看護ケア(エンドオブライフケア)、生活・療養の場における高齢者の看護について説明できる。 4. 認知症のある高齢者の特徴と看護について説明できる。 5. 高齢者の特徴を踏まえて、生活を支える看護技術について説明できる。 6. 高齢者のその人らしさや生活の質を理解し、紙上患者の看護過程の展開ができる。	◎	◎	◎	◎		
高齢者看護学実習Ⅰ	実習	3	1	認知症グループホーム、デイケア、デイサービス等を利用する高齢者を対象に、地域・在宅で暮らす高齢者の生活の特徴、社会資源、認知症ケアの実践を理解し、その人らしい生活を支援する看護の役割について考察することができる。また高齢者と介護家族への支援・援助を行う保健・医療・福祉の多職種連携の実践について理解し、高齢者の生活中心に焦点を当てた看護の視点を養う基礎的能力を修得する。	1. 介護保険制度における認知症グループホーム、デイケア、デイサービス、ケアプランセンターの機能と役割を説明できる。 2. デイサービス、デイケアへ通所している高齢者との関わりを通して高齢者の生活機能・生活ニーズ・もてる力について説明できる。 3. 認知症を有する高齢者への看護・介護の実践から適切な認知症ケアを考え説明できる。 4. 高齢者の健康生活ニーズから健康生活課題を抽出し、その解決を支援するケアプランニングについての実践からその人らしい生活を行う方策を説明できる。 5. 高齢者と介護家族を支援する保健医療福祉チームの関係職種と多職種連携・協働の実践からそのあり方を説明できる。 6. 老年看護を実践する者として倫理観を持ち誠実な態度で取り組むことができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
高齢者看護学実習Ⅱ	実習	3	2	地域・在宅で生活する高齢者が認知症などの疾患や障害を持ちながらもその人らしく生活を営むことができるように、高齢者の生活中心に考えたケアニーズの充足に焦点をあてた生活志向型・生活モデルの看護実践を展開できる基礎的能力を修得する。	1. 老年期の特徴をふまえて高齢者の多様性、個別性、もてる力を説明できる。 2. 高齢者・家族と人間関係を築き、高齢者を疾患や障害を有している生活者にとらえ、生活機能の視点について説明できる。 3. 高齢者のもてる力に着目し生活機能の視点を重視しながら、疾患や障害は高齢者の生活にどのような影響を及ぼしているのか、病態について分析を行い看護計画を立案、実施、評価できる。 4. 高齢者の生活を支援する保健医療福祉チームの連携と協働する中で看護の役割を説明できる。 5. 老年看護を実践する者として倫理観を持ち誠実な態度で取り組むことができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小児看護学	講義	2	2	小児看護の歴史的変遷や現代社会の情勢、家族機能の変化をふまえて小児看護の対象とその特徴を理解し、健康問題を持つ子どもと家族に対する適切な看護を実践するための基礎的知識を身につける。	1. 小児看護の対象とその特徴、小児を取り巻く社会について理解し、看護の役割と課題が説明できる。 2. 小児医療や看護の変遷について説明できる。 3. 小児看護における倫理的配慮や子どもの権利について説明できる。 4. 子どもの成長・発達過程と発達課題が説明できる。 5. 発達段階に応じたコミュニケーションの方法と、子どもへの説明と同意の意義・方法が説明できる。 6. 子どもの安全を守る意義と方法が説明できる。 7. 発達段階に応じた養育の特徴と方法が説明できる。 8. 災害や子どもの障害が子どもや家族に与える影響について説明できる。 9. 子どものメンタルヘルスについて説明できる。	◎	○		○		

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(看護学)の学位を授与します。 ① 豊かな人間性が高い倫理観をもち、対象の人々の健康な生活の実現のために科学的根拠に基づく専門的な志向を身につけている(思考) ② 質の高い看護実践を目指し、看護学および関連学問領域の最新の知識・技術を主体的に探索し活用することができる(知識・態度) ③ 優れたコミュニケーション能力を身につけ、対象者と対話による相互理解や良好な人間関係を築くことができる(態度・行動) ④ 看護専門職として保健医療福祉等の多様な職種と協働して活動できる能力を身につけている(知識・技術) ⑤ 常に研究的視点を持ち、看護実践の解決すべき課題の発見と解決のため論理的な思考と分析ができる(思考・知識・態度) ⑥ グローバルな視点で多様な価値観を持つ人々の健康に貢献できる資質を身につけている(創造・行動)										
小児看護方法論	演習	3	2	健康障害を持つ子どもとその家族の特徴や健康の保持増進と成長発達を促すための看護について理解し、様々な状況に応じて適切な看護援助が実践できる基礎的能力を身につける。	1. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響を理解し、発達段階の特徴をふまえて健康障害をもつ小児期患者の看護アセスメントおよび看護計画が立案できる。 2. 子どもによくみられる症状の特徴とその看護について説明できる。 3. クリニクラウンの活動を通して、病気や障害をもつ子どもと家族への援助方法が説明できる。 4. 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割が説明できる。 5. 医療的ケアを必要とする子どもと家族の特徴と必要な看護が説明できる。 6. ヘルスアセスメントの特徴を基に発達段階に応じたバイタル測定・身体計測方法を理解し、モデルを用いて実施できる。 7. 子どもの事故と救命処置について理解し、モデルを用いて救急蘇生が実施できる。 8. 検査や処置を受ける子どもと家族への援助が説明できる。 9. ホスピタルプレイセラピスト(HPS)の活動を通して、病気や障害をもつ子どもにとつての遊びの意味や提供方法が説明できる。 10. 様々な健康段階にある子どもと家族の特徴や必要な看護が説明できる。	◎	◎	◎	◎	○		
小児看護学実習	実習	3	2	子どもの成長発達を支える看護・看護演習、治療過程にある子どもの看護・看護演習で学んだ知識・技術・態度を前提に、あらゆる健康レベルにある子どもや障害および成長・発達過程にある子どもとその家族への個別的な看護実践の基礎を習得する。	1. 健康な子どもの成長・発達の特徴が理解できる。 2. 健康な子どもの日常生活援助を通して、発達段階に応じた養育について考えることができる。 3. 小児科外来の環境と受診する子どもと家族の特徴が理解できる。 4. 外来診療を受ける子どもと家族に必要な看護の役割を説明することが出来る。 5. 障害のある子どもの生活や教育環境を知り、必要な関わりが理解できる。 6. 入院生活を送る子どもとその家族の全体像を捉え、状況に応じた看護計画を立案し、実施することができる。 7. 子どもの病気や障害が家族に及ぼす影響を理解し、必要な支援について考えることができる。 8. 小児看護を実践する者として相応しい姿勢で行動することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
母性看護学	講義	2	2	1. 母性看護の特徴と女性のライフサイクルの概要を学ぶ 2. 妊娠・分娩期にある人々の、健康を支えるための看護を実践する基礎的能力を養う。	1. 母性の概念と母性看護の意義・役割を説明できる。 2. 女性を取り巻く環境と母子保健活動を説明できる。 3. 女性のライフサイクル各期の身体的・精神的・社会的特性を説明できる。 4. 妊娠の生理と胎児発育について理解し、妊娠各期の身体的・心理的・社会的変化及び情緒的变化を説明できる。 5. 妊娠中に起こりやすい不快感の機序を踏まえた看護を理解し、ケアの要点を述べることができる。 6. 分娩の生理を理解し、分娩経過から母体胎児の健康状態のアセスメントができる。 7. 産婦および家族のニーズを踏まえたケアについて述べることができる。	◎	○		○			
母性看護方法論	演習	3	2	1. マタニティーサイクルにおける母児の健康問題をアセスメントし、看護援助の計画・立案が行え、母性看護学の対象と看護援助の特徴をふまえた看護技術を習得し、母性看護学実習を行う上で必要な看護実践能力を養う。 2. マタニティーサイクルにおける母児の健康問題を理解し、産褥期・新生児期における看護と実践の必要性を学ぶ。	1. 妊娠・分娩期・産褥期・新生児期の観察と必要なケアを理解し、母子の健康状態をアセスメントできる。 2. 母子および家族に対する個別事例の看護過程の展開ができ、ケアの必要性について述べることができる。 3. 母乳育児の特性について理解し、母乳育児支援の情報提供とケアについて説明できる。 4. マタニティーサイクルにおける看護援助の特徴をふまえた看護技術を習得できる。 5. 育児支援に必要な知識と方法を理解し、保健指導ができる。	◎	◎	◎	◎			
母性看護学実習	実習	3	2	マタニティーサイクルにおける女性とその家族を対象とし、女性の妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護を基本として、母体の生理的変化・心理的变化と新生児の特性を理解する能力を養う。 母児の正常な経過に起こりやすい健康問題を理解し、母児とその家族への看護を行うための基本的能力を養い、産褥期・新生児のケアを通して、ウェルネスの視点で看護を展開し実践する能力を養う。	1. 健康診査に来院した妊婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解し、妊娠各期における看護の必要性が理解できる。 2. 産婦の身体的、心理的状況を把握し、分娩各期における看護の必要性が説明できる。 3. 産婦と新生児の身体的、心理的、社会的状況を把握し、産褥期における看護が指導の下に実践できる。 4. 外来、病棟での各種保健指導に参加して、母児の健康や正常な経過を促進するための看護について説明および実践できる。 5. 出産の場に立ち会うことで自己の生命観を振り返ったり、母子のケアを通して自己の母性意識・父性意識を高めることができる。 6. 母性看護における看護者の役割を理解し説明できる。 7. 地域における助産院や保健センターの役割を理解し、地域で生活する母児を取り巻く社会的環境について考察できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
精神看護学	講義	2	2	精神の健康を増進し、倫理的態度・人権を考える姿勢を身につけるために、社会の動向と精神看護、我が国の精神保健福祉制度の概要について理解する。	1. 精神の健康の定義と考え方が説明できる。 2. 精神保健福祉の歴史と法律が説明できる。 3. 精神看護における基本的人権が説明できる。 4. 精神を病む人はどんな状態を示すのか説明できる。 5. 精神医学で使われる疾患について説明できる。 6. 精神保健上の問題を抱えている対象者への看護について説明できる。	◎			○	○		

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
						次のような知識や能力を備えた学生に学士(看護学)の学位を授与します。 ① 豊かな人間性と高い倫理観をもち、対象の人々の健康な生活の実現のために科学的根拠に基づく専門的な志向を身につけている(思考) ② 質の高い看護実践を目指し、看護学および関連学問領域の最新の知識・技術を主体的に探索し活用することができる(知識・態度) ③ 優れたコミュニケーション能力を身につけ、対象者と対話による相互理解や良好な人間関係を築くことができる(態度・行動) ④ 看護専門職として保健医療福祉等の多様な職種と協働して活動できる能力を身につけている(知識・技術) ⑤ 常に研究的視点を持ち、看護実践の解決すべき課題の発見と解決のため論理的な思考と分析ができる(思考・知識・態度) ⑥ グローバルな視点で多様な価値観を持つ人々の健康に貢献できる資質を身につけている(創造・行動)					
精神看護方法論	演習	3	2	精神の健康障害からの回復を促進する看護の具体的方法について学習するために、精神疾患の症状や病態、各種治療法と看護について理解する。 精神疾患を持つ対象の回復を助けるために必要な治療的援助関係を理解し、生活支援のための保健医療福祉サービスの実践、精神科リハビリテーションの実践、地域での看護を理解する。 精神疾患を持つ対象の回復を助けるために精神保健医療上の問題を抱えている対象の、その人となりや生活上の文脈において理解する。	1. 精神保健上の問題を抱えている対象者への看護について説明できる。 2. コミュニケーション技法とその活用方法について説明できる。 3. プロセスレコードの基礎知識とその活用方法について説明できる。 4. 地域における精神障がい者の生活支援、保健医療福祉サービスについて説明できる。 5. 精神科における多職種連携と精神科訪問看護の役割を説明できる。 6. 精神科におけるリハビリテーション、リカバリーの視点について説明できる。 7. 対象をとりまく生活・地域・治療環境について説明できる。 8. 安全安心な対話的環境を踏まえて対話実践を行うことができる。	◎	◎	◎	◎		○
精神看護学実習	実習	3	2	精神に障がいをもつ対象者の背景及び、生活の実際を知り、社会復帰していくために必要な社会資源や精神医療チーム連携について考え、対人関係のプロセスを通して対象の全体像をとらえた上で、精神障がい者を支援する際に必要な看護の役割や支援について理解する。	1. 精神障がい者が地域で利用できる様々な社会資源について説明できる。 2. 精神障がいを持つ対象者の背景、生活の実際について説明できる。 3. 対象の病態や症状等を説明できる。 4. 相互作用のプロセスを通して対人関係形成について振り返り、治療的関わりを説明できる。 5. 対象の全体像を把握し、必要な看護援助を考察し説明できる。 6. 精神科における安全管理や人権擁護について説明できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
地域健康教育方法論	演習	2	1	地域の健康ニーズを把握するプロセスと方法を理解し、健康の保持増進、予防への健康ニーズに対する健康教育計画と評価の作成を通して、多様な場や状態にある人々への健康教育に関する基礎的能力を養う。	1. 健康支援、健康教育の意義、理論について理解し、説明できる。 2. 地域の特性や社会資源、健康指標をもとにした地域のアセスメントを行い、地域の健康課題を抽出できる。 3. 地域の健康課題のニーズから、対象者と健康教育方法をその理由とともに説明できる。 4. 健康教育の実施について、対象者への参加を促す方法を検討し、実施できる。 5. 健康教育の準備について、必要な関係機関や職種との調整ができる。 6. 健康教育に必要な媒体を効果的に作成できる。 7. 健康教育の評価項目を作成し、適切な評価ができる。	◎		○		○	
地域健康教育実習	実習	2	1	1. 多様な地域から集まる人々とのコミュニケーションを通して、人々の健康に対する認識や健康管理に影響をおよぼす要因を捉える基礎的能力を養う。 2. それまでに学習した知識・技術・態度を統合して、地域で暮らす人々への健康教育の実施評価により、多様な対象の健康を支える看護を実践する基礎的能力を養う。	1. 地域で暮らす人々への健康教育を主体的に実施できる。 2. 健康教育の実施評価より、改善点を考察できる。 3. 健康教育後のグループインタビューにおいて、人々の健康に対する認識や健康管理について話を聞くことができる。 4. 多様な地域の人々の健康に対する認識や健康管理について、適切なコミュニケーションによってインタビューできる。 5. 多様な地域で暮らす幅広い年代の人々の健康に対する認識や行動について、その背景とともに説明できる。 6. 地域で暮らす多様な人々の健康を支える看護について考察できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
家族看護論	講義	3	1	システムとしての家族の健康問題について理解し、家族の健康を維持・回復するための基本的な支援方法を学ぶ。	1. 家族成員の健康問題が家族に与える影響を説明できる。 2. 家族システム理論に基づく家族アセスメントと家族介入の方法を説明できる。 3. 家族を対象とする看護展開の基本的な方法を説明できる。	◎	◎	◎	◎		
ストレスマネジメント論	講義	3	1	精神の健康を脅かす様々な事象に対処する方法について理解する。	1. 精神の健康を脅かす様々な事象に対して対処できる実践方法を説明できる。 2. 様々なストレスコーピング方法を説明できる。 3. 自分自身を大切にできるスキルを説明できる。 4. メンタルヘルスと自分自身へのケアについて考察できる。	◎	◎	◎	◎		
看護学研究方法論	演習	3	1	看護現象を研究的に追及する基本的知識を学習する。また、リサーチクエスチョンを立てるまでの一連のプロセスを体験的に学習し、自己の疑問を解決するための看護研究の実施に必要な基礎知識の理解を深める。	1. 看護研究の意義、目的、役割について理解できる。 2. 研究テーマの選び方、リサーチクエスチョンについて理解できる。 3. 研究の倫理的配慮について理解できる。 4. 研究デザインについて理解しその方法を述べることができる。 5. 研究計画書、研究発表について理解できる。 6. 自己の関心・疑問に基づくキーワードを使って関連文献を検索できる。 7. 複数の関連文献をクリティックして得た知見から研究で追求する疑問を記述できる。	○	○			◎	
看護学研究	演習	4	2	指導教員のもとでリサーチクエスチョンを立てるまでの一連のプロセスを体験的に学習し、自己の疑問を解決するための看護研究の実施に必要な基礎知識の理解を深める。そのうえで担当教員の支援を受け、各自が研究計画書を作成する。	1. 看護に関する自己の関心・疑問を明確に記述する。 2. 自己の関心・疑問に基づくキーワードを使って関連文献を検索する。 3. 複数の関連文献から自己の関心・疑問に関する知見を記述する。 4. 複数の関連文献で得た知見から研究で追及する疑問を記述する。 5. 提示された研究論文のクリティック結果を記述する。 6. 研究計画書を作成する。 7. 研究計画書の発表ができる。					◎	○

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
次のような知識や能力を備えた学生に学士(看護学)の学位を授与します。 ① 豊かな人間性が高い倫理観をもち、対象の人々の健康な生活の実現のために科学的根拠に基づく専門的な志向を身につけている(思考) ② 質の高い看護実践を目指し、看護学および関連学問領域の最新の知識・技術を主体的に探索し活用することができる(知識・態度) ③ 優れたコミュニケーション能力を身につけ、対象者と対話による相互理解や良好な人間関係を築くことができる(態度・行動) ④ 看護専門職として保健医療福祉等の多様な職種と協働して活動できる能力を身につけている(知識・技術) ⑤ 常に研究的視点を持ち、看護実践の解決すべき課題の発見と解決のため論理的な思考と分析ができる(思考・知識・態度) ⑥ グローバルな視点で多様な価値観を持つ人々の健康に貢献できる資質を身につけている(創造・行動)												
看護管理論	講義	4	2	看護サービスを提供するために必要な看護管理の基礎を学び、看護職の役割と機能について理解する。	1. 看護管理とは何かを概観し、説明することができる。 2. 対象者の安全の保障と質の高いケアを提供するための組織・体制について理解し、説明することができる。 3. 看護をとりまく諸制度・政策と医療における経済的側面について理解し、説明することができる。 4. 看護ケアサービス提供のためのシステムについて理解し、説明することができる。 5. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能・役割について理解し、説明することができる。 6. 看護職としてのキャリアマネジメントについて理解し、将来のキャリア形成を考えることができる。	◎				○	○	
看護統合実習	実習	4	2	既習の知識・技術・態度を統合して複数患者に対する全人的ケアを実践する能力を高めるとともに、看護職者としての使命や役割を發揮するために必要な看護活動のあり方を学ぶ。	1. 実習に対する自己の課題を明確にし、主体的に取り組むことができる。 2. 対象の看護問題を解決するために必要な個別性・安全性を考慮した看護計画を立案できる。 3. 優先順位を考え、個別性に合わせた看護援助を実施できる。 4. 医療現場における倫理的課題について考察できる。 5. 病棟看護管理者の役割・機能が説明できる。 6. 看護チームの一員として自己の果たすべき役割が説明できる。 7. 医療チームの一員として、他職種との協働・連携における看護師の役割について説明できる。 8. 病院の安全管理(医療事故対策・感染対策など)について説明できる。 9. 看護職として相応しい姿勢で行動することができる。 10. 今後の自己の課題を明確にできる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
臨床判断能力の探究	演習	4	1	既習の知識・技術・態度を統合して多様な健康状態にある人々の安全を守り健康回復を促進するための看護実践能力を身に付ける。	1. 多様な健康状態をアセスメントするために必要な知識・技術・態度を説明することができる。 2. 看護の対象となる人々の健康問題をリアルタイムでとらえ状況を判断して看護実践することができる。 3. 看護実践の省察を通して臨床的思考を説明することができる。 4. 1～3を通して看護の専門性について考察し記述することができる。			○	○		◎	
国際看護論	演習	4	1	国際看護における基礎知識を習得し、保健分野における健康課題とグローバルイゼーションのむたらす、健康格差について理解を深める。また、世界の人々の生活環境や社会、文化、経済的背景を考察し、広い視野をもって保健医療と看護の役割を考えることができる能力を養う。	1. 国際保健及び看護に関連する国内外の機関やその役割について述べることができる。 2. 各国の異なる医療事情及び、医療システムについて述べるができる。 3. 国際医療協力活動における看護職の専門性、役割、課題について述べるができる。 4. 世界的な健康分野の課題を理解し、国際貢献や看護のあり方について考察することができる。 5. 国内における、異文化背景をもつ対象者が直面する健康問題を理解し、多文化共生と看護の役割について考察することができる。						◎	
災害看護論	演習	4	1	災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の準備期から災害直後および中・長期にわたる必要となる看護活動について学び、災害看護活動に実践できる基礎的能力を習得する。	1. 災害看護の定義、災害によって起こり得る健康問題を説明できる。 2. 災害医療・災害看護の特徴について説明できる。 3. 災害時の支援体制について説明できる。 4. 災害看護活動に必要な情報と避難行動について説明できる。 5. 災害サイクル各期における医療活動と看護師の役割が説明できる。 6. 災害時のトリアージの原則と方法を説明できる。 7. 災害時要配慮者への看護について説明できる。 8. 災害時の被災者や救援者に対する倫理的配慮について説明できる。 9. 被災者や遺族への「こころのケア」について説明できる。 10. 病院内メディカルラリーにて災害看護活動を実践できる。			◎		○	○	
緩和ケア論	講義	4	1	緩和ケアの対象となる人とその家族の苦しみを緩和しQOLを高めるための援助の実際を理解する	1. 緩和ケアの対象となる人とその家族の特徴を身体・心理・社会・スピリチュアルな側面から説明できる。 2. 緩和ケアの対象となる人とその家族の苦痛を緩和するための専門的知識および技術について説明できる。 3. 緩和ケアの対象となる人とその家族との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションスキルについて説明できる。 4. 緩和ケアの対象となる人とその家族が直面する倫理的問題およびその対応を説明できる。 5. 緩和ケアを提供するための多職種チームアプローチについて説明できる。	○	◎				○	
がん看護論	講義	4	1	がんの診断および治療期にある患者と家族を理解し、看護援助のために必要な知識を習得する	1. わが国のがんの動向と対策を記述できる。 2. がんの病態及び治療の特徴を記述できる。 3. がんの診断・治療を受ける患者と家族の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。 4. がん治療を受けながら生活を営む患者とその家族に必要な看護援助を説明できる。 5. がん患者と家族をめぐる社会的問題の概要を説明できる。	○	◎				○	

科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
						◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
次のような知識や能力を備えた学生に学士(看護学)の学位を授与します。 ① 豊かな人間性と高い倫理観をもち、対象の人々の健康な生活の実現のために科学的根拠に基づく専門的な志向を身につけている(思考) ② 質の高い看護実践を目指し、看護学および関連学問領域の最新の知識・技術を主体的に探索し活用することができる(知識・態度) ③ 優れたコミュニケーション能力を身につけ、対象者と対話による相互理解や良好な人間関係を築くことができる(態度・行動) ④ 看護専門職として保健医療福祉等の多様な職種と協働して活動できる能力を身につけている(知識・技術) ⑤ 常に研究的視点を持ち、看護実践の解決すべき課題の発見と解決のため論理的な思考と分析ができる(思考・知識・態度) ⑥ グローバルな視点で多様な価値観を持つ人々の健康に貢献できる資質を身につけている(創造・行動)												
ウィメンズヘルスケア論	講義	4	1	女性の健康を性と生殖の関連から捉え、一連の発達の变化の過程や社会的要因も踏まえて、女性の生き方を支援していく看護者の役割や支援方法について学ぶ。	1. 現代社会における女性のライフスタイルが理解できる。 2. 女性の健康とヘルスプロモーションについて理解し述べる事ができる。 3. 女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツについて理解し説明できる。 4. 女性の生殖器疾患患者の看護を理解し説明することができる。 5. 女性の就労の現状と子育てにおける問題や課題について考察することができる。 6. 女性の健康と法律について理解し説明することができる。	○	◎					
クリティカルケア論	講義	4	1	クリティカルケアを必要とする患者の身体的・心理的・社会的側面を理解し、患者とその家族に対する看護を実践するための基礎を学習する。	1. クリティカルケアの概念、患者の生命を支えるための支援体制、看護の特徴を説明できる。 2. クリティカルケアを必要とする患者の身体的・心理的・社会的特徴および家族の特徴を説明できる。 3. クリティカルケアを必要とする患者の全身状態の観察と全身管理の基本を説明できる。 4. クリティカルケアを必要とする患者と家族への看護援助を説明できる。 5. クリティカルケアにおける倫理的問題について考察することができる。	○	◎					
グリーフケア論	講義	4	1	グリーフ(悲嘆)及びグリーフケア(悲嘆ケア)の理論とその実際について理解する。	1. グリーフ及びグリーフケアに関する理論を理解し、説明できる。 2. 様々な喪失による悲嘆の特徴を理解し、説明できる。 3. グリーフケアの様々な実践について理解し、説明できる。 4. 悲嘆と文化の関係について理解し、説明できる。		◎				○	
高齢者健康増進看護論	講義	4	1	年を重ねていくことをプラス思考に考え、豊かに生きるサクセスフル・エイジング(幸福な老い)を実現するために必要な高齢者の健康論を学習し、高齢者が健康で長く生きていけるように支援する方法と看護について習得できる。	1. 日本の健康の現状とサクセスフル・エイジング(幸福な老い)について説明できる。 2. 健康行動の重要性と健康行動促進のための実践について考えることができる。 3. サクセスフル・エイジング(幸福な老い)を実現するためのコミュニティづくりについて考えることができる。 4. サクセスフル・エイジング(幸福な老い)を実現するためのロコモティブシンドローム対策・メタボリックシンドローム対策・フレイル対策や精神・心理面の対策について説明できる。 5. サクセスフル・エイジング(幸福な老い)を実現するための具体的な支援策や看護について考えることができる。	○	◎		○			